

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽1棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	令和7年2月10日	外部評価結果確定日	令和7年4月12日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員全員が女性にて対応しており、常に笑顔絶やさず細やかなサービスを提供している。職員同士連携体制も取れ、利用者との信頼関係も築けている。利用者一人ひとりのことを考えその人に合った支援を心がけ、利用者が毎日笑顔で楽しく過ごせるよう日々努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=4271401822-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JkyvosvoCd=4271401822-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年3月17日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

島原へ向かうグリーンロードを山手に入り静かな環境下にある。全職員が女性で占め新人職員への指導は全員で行っており、和気あいあいとした雰囲気を感じた。職員同士のコミュニケーションは、利用者様が近くにいる中、昼食を一緒にとり食事後は、普段の生活の事、仕事に関して思い思いの話の中に笑顔を見る事が出来た。ご家族様からの要望が一番多いのは、通院に関する事であり、内科、歯科は往診を依頼しているが、個別通院について職員が同行している。記録面に対しても食事、おやつ、摂取量、検温、排便量、入浴、口腔衛生に至るまで、個人別に毎日手書きで記録しており、利用者様の意向が引き出された時は記録に下線を引く事で他の職員が内容を理解し共有しやすくなるよう工夫している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑(ところ)、楽しくなければ楽苑じゃない」という理念を作り、その理念を心がけ楽しい雰囲気作りに努めている	法人理念の設定は、初代理事長が書き残していたものを二代目理事長が福祉サービスの提供に定めるものとして当初からの職員とともに決定した。加えて、グループホーム楽苑の理念も「一日一笑(いちじついっしょう)」も作っている。利用者様への支援は毎日の日報に記録しており、利用者様を和ませ、笑ってもらえるよう職員全員で支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて交流も最小限になり、缶拾い・地域清掃・消防団との消防訓練・子ども110番などで日常的に交流している	地域の方にグループホーム楽苑をより知ってもらう為、施設だよりを年2回程回覧板にて配布してもらっている。グループホーム楽苑の運営母体である、社会福祉法人楽々会主催のグラウンドゴルフ大会はこれまで14回続いており、職員は運営の手伝いをして地域との関係を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に自治会長にさんかして頂き運営推進会議を通じて理解や支援方法を地域の人々に向けて活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度、市町村職員自治会長利用者の家族の方を交えて会議を行い、報告や話し合いをしてサービス向上に努めている	運営推進会議の開催については、コロナ禍では、対面開催を控え書面による報告を行っていた。2024年9月より対面による運営推進会議を開催するようになり、年1回は避難訓練の様子を見てもらい、昼食を試食したりして様子を理解してもらっている。食事についてはおおむね好評だった。運営推進会議報告書はグループホーム楽苑のリビングカウンターに置き、閲覧できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内清掃や消防訓練に参加し事業所の実情やサービスの取り組みなど情報を提供し協力関係を築けるよう努めている	現在のところ市町村への相談、報告は運営推進会議の報告に留まっている。以前ご家族の中から支援に対するクレームについて、相談をしたケースがあった。島原市地域広域圏組合へ毎月利用者様の移動について、報告している。今後も綿密に連絡を取り合い事前にトラブルは防ぐようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないケアを心がけており、玄関の施錠もしておらず、センサーにて対応している	現在1名身体拘束に関わる利用者様がいる。車いすを使用している利用者様で自由に車いすで歩く事が好きな方で職員の関わりを少し拒む傾向にある。歩行中落ちそうになる事は本人も自覚しており、利用者様、ご家族様の承諾を得て食事、レクリエーション以外の時間帯に固定ベルトを装着している。毎月利用者様、ご家族には連絡を取り、承諾を得て、固定ベルトを最小限度にて使用している。身体拘束虐待防止についての研修を行い、次年度に身体拘束虐待防止委員会を設置する予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強の場を持ち、自宅や事業所内での虐待が無いよう注意を払っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センター指導のもと、権利擁護の成年後見制度について学ぶ機会があり、必要があれば活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には、必ず十分な説明を行い家族からも疑問点や不安なことを尋ね理解・納得を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けたり苦情処理ノートを作成しており、それらを運営に反映させている	ご家族様から一番要望が多いのは通院に関する事である。内科に関しては週1回、歯科は適宜、受診している。かかりつけ医に関しては利用者様の選択に任せているので個別の通院は職員にて対応している。利用者様自ら要望をすることは少なく、朝の起き方、食事の量、表情等いろんなことを見て話合い、支援に結びつけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りの時間に意見を交換したり、普段から職員間で話し合いをしたりしている	職員からの意見の聞き取りについては、利用者様がリビングに在中で、昼食を取りながら話している。和んだ雰囲気の中、新人職員にとっては介護スキルや支援の考え方を学ぶ場となっている。職員からの要望として倉庫(食品庫)に鍵をつける。利用者様がテレビを見るソファ、夜勤者の為にストーブの購入が上がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員の努力や実績、勤務状況を把握し、やりがいを持って働けるよう職場の環境や条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量を把握し、研修に参加してもらうことにより、更なる能力の向上に努めている。施設内でも研修の機会を設け意識向上につながっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や、講習会を通じて交流する機会をつくり、意見交換することによりサービスの質の向上につなげている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心して生活ご出来るように不安なことや要望等に耳を傾けながら関係性を築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の段階で家族からの信頼関係を築けていけるよう要望や相談を受け対応に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族にどのようなサービスが出来るかを「その時」の状況状態を見極めながら努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ空間を共に過ごす者として介護する側、介護される側という立場だけでなく料理や様々な場面で、昔の知恵をお借りしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が共に本人を支えていく関係作りをしていく上で面会に来られた際、本人の状況を報告したりコミュニケーションを取っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染症などで面会も以前のように出来なくなっている中、時間を制限しながら面会の機会をつくっている	家族への手紙を書く支援や携帯電話の使用が難しくなった利用者様への支援、お寺へのお布施を代行して持つて行くことがあり利用者様がお寺と繋がっている支援をしている。他にも自宅付近までのドライブなどを通して懐かしんでもらい、なかなか家族が来ない利用者様には折り鶴やぬり絵を勧め一人にしない支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの利用者の性格を把握して、いい関係を築けるようリビングの席を変えたり、仲介などに努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても外出先などで家族に会った時は経過を尋ねたりしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活スタイルや意向に合わせていけるようその人らしい暮らし方を検討している	声掛けを大切にしており、事務的な対応ではなく利用者様に合わせて、意向を引き出せるような声掛けを努めている。また、意向を引き出すことができた職員は、カルテに記載して下線を引くことで他の職員も共有しやすくなるよう工夫している。職員は大きな声を出さず落ち着いた雰囲気に対応しており、入所時に落ち着いたことが難しかった利用者様も、その雰囲気の中で生活するうちに落ち着いて生活ができるようになっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、病歴等、主治医や家族を通じ把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が生活スタイルの内容・経緯がわかるように、一人ひとりの日常生活をカルテに記入して把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを作成する際に日常生活の中で本人の願いを見出し、スタッフ同士で話し合いアイデアを出し合っている	毎日の朝の申し送り時や食事中など、職員みんなで常に利用者様についての意見交換を行っている。また、ケアプランの作成において、前回のをそのままコピーすることなく、ひとつひとつの課題やケア内容について熟考するためにも手書きすることになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状に合ったプラン作成になる様、3か月に1回はケアプランの見直しを行い、家族の意見を取り入れるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	マッサージ機を利用したり一人ひとりの能力に合わせたレクリエーションを行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが安全な暮らしを楽しめるように、地域の消防団ともすぐに連絡が取れるようにしており、火災等の避難訓練にも参加して頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にできるだけ以前からのかかりつけ医との関りを持ち、主治医との信頼関係の中、本人・家族の方が不安にならないよう支援している	入所前からのかかりつけ医とのつながりを尊重している。内科は週1回の往診、歯科は適宜往診に来てもらっており、月1回等の定期的な受診が必要な通院については、職員が送迎をしている。緊急時の連絡体制については、職員も把握しており、緊急時に混乱しないよう、連絡の手順など電話の近くに掲示している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一人ひとりの体調等は個々のカルテに記入し、訪問看護師に指示を仰いだり、急を要する時は主治医に報告をし体調管理を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、退院時に利用者が不安にならないように生活環境を整える支援をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、職員で話し合いを行い、病院から利用者の体調の報告を受けた後どの段階まで施設で見届けることができるのかを検討して支援している	入所時に蘇生についての意向などを同意書にて確認している。また、医師により看取り期と判断された場合、改めて看取りの対応についての家族の意向を確認している。利用者様の様子を見ながら担当職員には必要な対応を改めて確認するようしており、すべての職員が看取りの対応が可能である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や救急手当(心臓マッサージ・AEDの使い方)を職員全員ができるように訓練を受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	非常用消火器の使い方、通報の手順など火災時の避難訓練を消防団や消防署の職員立会いのもと行っている	カーテンだけでなく、カーペットも防災のものを使用している。避難訓練では消防署にも立ち会ってもらい、消火訓練も行っている。また、AEDの使用や心臓マッサージなどの蘇生についても指導を受け、利用者様の安心に努めている。	非常時に備えて備蓄を準備されているが、量と種類が十分とは言えず、3日分を目安に、また乾パンやご飯類だけでなく、内容についても検討されることを期待する。 火災避難訓練について、予定通り実施できないときは改めてスケジュールを組みなおすなど、求められる回数を実施できるよう努めることが望ましい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の言葉や意思などを否定せず尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている 自室のドアも開けたままにせずカーテンを利用してプライバシーの確保に努めている	利用者様の気持ちを汲み取るよう努めており、最初から否定することはせず理解を示すようにしている。一人ひとりの人格を尊重することで、大きな声を出さずに常に穏やかに対応することが日常となっている。こういった雰囲気の中で、利用者様に対して職員が不適切と思われる対応をすることは少ないが、そういった対応があった場合は、見かけた職員がどうしてそういった対応になったのか理解を示しつつ、次へと繋がるような注意をするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思がわかりやすく表せるような言葉かけや対応に努め、難聴の方にはジェスチャーを使うなど自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が一日をどう過ごしたいか本人のペースを優先し希望に沿うよう努め、体調の変化にも対応し支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど洋服のピックアップなどをお手伝いしてその方らしい身だしなみが出るようにしてる 2ヶ月に1度訪問での散髪があり、希望に沿ったスタイルで生活できるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使って一緒に下ごしらえをしたり 饅頭・干し柿・ホットケーキ・どんたへ(郷土料理)など利用者の能力を活かした食事の準備・片付けなど支援している	食を通じて良いケアをしたいというケアマネを兼ねた栄養士が、献立を考え、食事を作っている。彩り、盛り付け、味付けも配慮されており、食事は利用者様の楽しみの一つとなっている。また、まんじゅうと一緒に包んだり、庭のブルーベリーと一緒に摘んでジャムにしたりするなど、利用者様と一緒に食を楽しむ工夫をしている。クリスマス、ひな祭り、節分、ハロウィン、敬老の日等沢山の行事の際に季節を感じながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の体調や状態に合わせて、食事の水分量や糖分量、減塩など栄養バランスを考え提供している 早食い・飲み込みの悪い方にはミキサー食やトロミ食などでその方に応じた支援をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず一人ひとりに声掛けし口腔ケアをして頂いている 介助の必要な方には誘導して口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一日の流れでトイレ誘導やトイレへの移動を行い、トイレで排泄が出来るよう個々の習慣を活かして排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレへ頻回に行っていた利用者様へ時間を決めてトイレへ誘導することで、トイレの回数が増えるなど、こまめな声掛けが利用者様の自立につながっている。また、入所時は無気力でオムツを使用し、立ちあがることも難しかった利用者様に、こまめに声掛けをすることでオムツは必要なくなってトイレでの排泄が可能となり、職員みんなが声掛けを大切にすることで排泄の自立にもつながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り毎日の排便の有無を確認しその方に合った食事の水分量で調整し運動や下剤にて便秘の予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調不良を除き、本人の希望に合わせて入浴を楽しめるよう支援している 入浴困難時には清拭や足湯などで補い支援している。	入浴は日曜日以外の毎日実施しており、職員2人体制で、利用者様1人週に2～3回入浴できている。入浴の際には、好きなシャンプーや、しょうぶ湯、ゆず湯などで楽しんでもらっている。また、入浴のできない方や入浴以外で寒いと言われる方には、足湯で温まってもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンを把握し、本人の愛用の備品を取り入れ、楽しく生活出来るよう支援している 環境が変化してもそれぞれの生活習慣で暮らせるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病歴を把握し、薬を管理している 体調不良時、薬の変更時は職員で共有し症状の変化や的確な服薬が出来るよう支援している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に生活していく中で一人ひとりの力を見出し役割を担っていただく中で生活感を持ってもらい嗜好品や楽しみごとを見つけることで気分転換が出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍で以前のように思い通りに出かけることが出来ない中、混雑を避けてドライブなどに出ている 家族との外出はなかなか実現できないが面会では苑内の散歩などが出来るよう努めている	感染症が流行っていることから、人の多い場所へ外出をすることが難しい状況であるが、春や秋には、お花や紅葉を見にドライブに出かけ、外食も楽しんでもらっている。また、天気の良い日は近くの公園へ出かけたり、足湯に行ったりするなど、できる範囲で外出している。広い敷地内でも、職員や家族との散歩が可能であり、外の空気を吸ってもらうことができている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの金銭感覚を確認し管理のできる方は見守りの上自分で使えるよう一緒に買い物に行くなどして支援している 金銭管理の出来ない方は家族に行ってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じて電話はすぐ利用出来るようにしている 手紙も投函や必要であれば代筆などの支援をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のリビングは吹き抜けで中庭もあり光がよく当たる明るい空間になっており一日中利用者の方が過ごしやすくなっている 苑外に咲いている花を飾るなどして居心地よく過ごせるよう工夫している	掃除の分担はしているが、それ以外にも気が付いた職員がこまめに掃除をしており、オムツなどのおいしは感じられない。温湿度計を設置し、温度、湿度ともに調整しているが、加湿器よりも洗ったタオルを干した方が湿度が保ちやすいということで、こまめにタオルを洗って干すなど職員は過ごしやすい環境づくりに努めている。リビングにはマッサージ器、太もものマッサージ器、足つぼマッサージ器などを置いており、利用者様が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	苑内の廊下には椅子・テーブル等が設置してあり一人の時間や仲の良い利用者と過ごせるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段から使い慣れたもの、見慣れたものなどで安心できる部屋作りをし居心地よく生活できるよう工夫している	行政からの指導により、生活に必要なものは楽苑側で準備するようになっているが、できるだけ好きなものに囲まれて生活してもらいたいと考えている。塗り絵が好きで上手な利用者様は、色鉛筆や塗り絵の本などを置いており、部屋にも塗り絵の作品を貼って、落ち着いて過ごしてもらえる部屋づくりの手伝いをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、浴室、廊下などほぼすべてがバリアフリーになっており、車椅子でも余裕を持ってすれ違える広さの廊下があり、手すりの設置もあるので自力歩行しやすく、ベッドや自室にも手すりがあるので起きてすぐ安全に生活ができるよう工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401822		
法人名	社会福祉法人楽々会		
事業所名	グループホーム楽苑 楽2棟		
所在地	長崎県島原市有明町湯江乙1138		
自己評価作成日	令和7年2月10日	外部評価結果確定日	令和7年4月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全員が女性スタッフで笑顔の絶えない職場でありきめ細やかなサービスを提供している 職員同士施設内のことはすべて共有・連携してチームワークもよく取れている 立地的に自然に囲まれ、交通量も少ないので、苑庭にてバーベキュー、そうめん流し、花火等季節に合った催し物・サービスで支援している
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4271401822-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JgyvsvoCd=4271401822-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14-12		
訪問調査日	令和7年3月17日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「楽苑は楽しい苑(ところ)、楽しくなければ楽苑じゃない」を法人理念に掲げ毎日利用者の方々と全職員で楽しく過ごすことが出来る事業所になるよう取り組んでいる		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会のグラウンドゴルフ大会、地元消防団の方々と消防訓練などを通して日常的に関わり、交流していけるように努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症の方々に対する理解、支援の方法を地域の方に向けて活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	数か月に一度話し合いの場を作り、サービス内容や身体的拘束等について意見交換を行い職員同士でも常に情報共有などを行いサービス向上に努めている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の相談員の方が月に一度来られ、利用者の方から話を聞いたりしながら事業所の現状把握などをされるその後施設の実情やケアサービスの取り組み等の問題点を改善したりサービスの質向上ができるよう協力関係を築いている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、身体拘束をしないという事を理解した上で利用者の方と関わっている施錠は行っておらずセンサー音やドアに鈴などをつけて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員虐待があってはならないと理解している 勉強会や研修会などを行い利用者の方々に対しての言葉かけや態度に気を付けながら接している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について学ぶ機会があり、利用者も制度を利用されている方から話を聞いたりして必要性がある方にも話をして支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に見学・ご家族の方や利用者の話を聞き十分な説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、ご家族の方が面会に来た際に要望等を全職員に表せるよう機会を設けており、運営に反映させている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送りや、日々の勤務の時でも相談や話し合いをする場があることで意見等の反映ができています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力していることを把握することで、毎日やりがいをもって働けるような環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力等を把握し、法人内外の研修を受ける機会を促し個々が向上心ややりがいをもって働けるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や意見交換など他事業所との交流活動をして、サービスの質の向上に取り組んでいる		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いや、意向を出来る限り表現できるように言葉かけに努め要望を職員間で共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会などで近況等を伝えるようにして、家族が抱える問題点を相談・支援ができるような関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞いたりサービス支援に最善の対応が出来るよう心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活に必要な役割を担ってもらうなど協力関係を築いている 時にはお互い知恵を出してもらうこともある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人にとっての今の課題について一緒に考えたり、家族にも本人の気持ちを伝え互いに支える関係にある		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自治会、敬老会などの参加や出来る限りの家族との外出などを支援し推進している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	風船バレーや塗り絵、洗濯物をたたむなど一緒にして頂いたり、個性を活かした環境を多く見つけ、共同生活が送れるよう努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時折近況を伺ったり、会った時は気軽にお話が出来よう現在の状況を把握するようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その方に合った手助けをしたり、改善すべき点を見つけたり、健康面・精神面の安定に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生い立ちなどを、ご家族の面会時やモニタリングの際に聞き取りを行うなど、これまでの生活の把握をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の状態変化を観察してカルテの記入をし、記録に残すことで職員全員が把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表は各担当で意見交換したり、ご家族の意向を取り入れてケアプランを作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子やケアの内容を記録し職員間で情報共有し、実践や介護計画に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の生活状況や家族の対応などニーズに応じて、サービス提供や支援に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園児の慰問や自治体・消防団との連携などであんなで豊かな暮らしが出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を尊重し入所前のかかりつけ医を大切にして適切な医療が受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調に応じて適切に病院受診が出来るよう、看護師の申し送りを確認し入居者の状態の把握に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携を密にし、早期退院に向けて、家族と病院との情報交換や相談の支援に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、病院に終末期に事業所で出来ることを説明し、家族の要望にできるだけ応じられるよう努めている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に消防署立会いのもと訓練をしている 緊急時の対応についても迅速に対応できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	火災を未然に防ぐために防災のカーテンやカーペットを使用したり、全職員が緊急時に対応出来るよう日常的に避難訓練を行っている また年に数回、消防署立会いの避難訓練を行っている		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの意思を尊重しプライバシーを確保しながらその人その人の思いを否定せず言葉かけに配慮し対応している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の判断ではなく本人の希望で意思決定できるよう努めている 難聴の方には筆談やジェスチャーで自己決定出来るように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に1日を過ごしていただき、レクリエーション・行事等の参加は無理強いせず希望に沿って支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来てもらっている 季節に合った衣服を選びその人らしい身だしなみ出来るよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみと思ってもらえるよう盛り付けなど工夫して提供している 味見をしてもらったり、テーブルを拭いてもらったりして手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食事量、水分量を考え、普通食・きざみ食・ミキサー食・汁物にとろみを加える等その人に合った食事を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいをを行い、義歯の方には入れ歯洗浄剤を使用するなど、個々に応じた口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を定期的に行い排泄パターンをつかみトイレで排泄できるよう支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェック表にて毎日の排便の有無を確認し便秘にならないよう下剤で調整し、運動・食事にも気を付け予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのその日の体調をふまえ、入浴前に本人に伺ったり、希望に合わせて支援をしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室には使い慣れたものを置いてもらい、部屋の温度調整に気を付け、安眠できるよう努めている 施設内のソファや畳間でも自由に休息を取れるようにし、安心して生活できるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は施設で管理・保管している 一人ひとりの1日分の薬を仕分けし、状態の変化を見逃さないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりのできることを見出し役割、楽しみごとなど提供し気分転換できるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見、ドライブ、外食など外出する機会を作っている 家族の希望と一緒に外を散歩したり外出できるようにしている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族が行っている 本人がお金を持つことを希望したり家族が希望された時は本人に持たせ、使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話を使用できるようにしており、手紙も出せるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	皆が使う場所は清潔・消臭・季節感を心がけ、個々の部屋は室温などに注意し、居心地よく過ごせるよう努めている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、廊下にソファ・椅子・テーブルを置き、利用者同士で使ったり、一人で使ったりと自由に過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた家具、使い慣れたものなどを持ち込むことが可能で、家にいた時と同じ空間に近づけることで居心地よく過ごせるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室など、施設内のいたるところに手すりが設置しており、ベッドにも必要に応じて手すりを付け、自立した生活を送れるように支援している		